

	<h1>大泉</h1>	「自律」 「協働」 「創造」	令和8年5月7日 発行者 大槻 亨 編集 本田 敏行
			第2号

笑顔とエネルギーあふれる運動会に

校長 大槻 亨

校庭の木々の緑がいつそう深まり、爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。

いよいよ5月23日（土）、本校は第79回運動会を迎えます。現在、729名の生徒たちは、この日のために個人種目や学年種目、そして伝統の大中ソーランやよさこいといった表現種目に、日々全力で練習に取り組んでいます。一人ひとりが主役となり、躍動する姿を今から心待ちにしています。

本校の運動会が目指す意義は、大きく二つあります。

一つ目は、絆を深める「連帯と一体感の創造」です。

700名を超える生徒が一堂に会し、仲間とともに汗を流し、喜びを分かち合う。互いに協力し合い、クラスのために懸命にエールを送る姿は、絆をより強固なものにします。特に、全校で心をつなげる表現種目は、息を合わせる大切さを肌で感じる貴重な機会です。そのひたむきな輝きは、観る人々の心に大きな感動を届けてくれるものと確信しています。

二つ目は、「大中プライド」の継承です。

本校の伝統である「上級生が模範を示す」という文化は、3年生の誇りと責任、そしてそれを吸収する下級生の眼差しによって受け継がれてきました。ダンスの指導や係活動を通じ、先輩から後輩へと丁寧に技術や思いが手渡されています。運動会当日は、その凛々しい上級生の背中から、後輩たちが多くのことを学び取ってくれることを期待しています。

今年の運動会をより実りあるものにするために、私は生徒たちに以下の3つの姿勢を求めています。

「自律」して行動すること：指示を待つだけでなく、自分の役割を理解し、主体的に取り組むこと。

「協働」すること：異なる個性を尊重し合い、チームの力を最大化させること。

「創造」すること：意見のぶつかり合いを前向きに捉え、新しいアイデアや解決策を生み出すこと。

この「自律・協働・創造」の先に、今年のスローガン「笑熱流義意（えねるぎー）」があります。生徒一人ひとりの笑顔とエネルギーが爆発する、素晴らしい舞台となるはずです。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ぜひ当日ご来場いただき、生徒たちの精一杯の挑戦に、温かい拍手とご声援を賜りますようお願い申し上げます。



オクラ日記 NO. 2

一般的に「勝って奢らず、負けて腐らず」という言葉を聞いたことがあると思います。そこで、ラグビーにおいては更に一步踏み込んで「勝者は敗者の誇りを守る責任がある。」という考えがあることをご存じでしょうか。

ラグビーには、ノーサイドという表現があり、試合終了の笛が鳴ると敵味方の関係がなくなり、お互いの健闘を讃えあうという独自の文化があります。ついさっきまで体と体をぶつけて相手を倒したり、倒されたりして気持ちも高ぶっていた直ぐ後に、敵味方がなくなるなんてそんなこと単なる美学ではないかと思われることでしょう。しかし、ラグビーでは本当に試合終了（ノーサイドの笛が鳴る）直後は、お互いに力を出し切ってすがすがしい気持ちになるものです。

もう一つラグビーでの独特なルールがあります。それは試合終了時に同点ならば延長戦はありません。サッカーや野球では延長戦が実施されます。しかし、ラグビーでは全ての力を出し切ってしまう延長戦を戦う力は残っていません。そこで「抽選」という手段を使って勝敗を決めるのです。

今はこの抽選を行うまでに多くの項目（トライの数、反則の数等）を照らし合わせて勝敗を決めるのですが、以前はそのようなルールはありませんでした。

私の時代には、抽選を試合終了後のグラウンドの中央で実施をしていました。（今は控室で行っています。）もちろんスタンドには応援に駆けつけてくれた保護者や生徒、学校関係者が多くいて、グラウンドの中央で行われる抽選を静かに見守ります。

キャプテンであった私が全国大会出場を決める決勝戦で抽選のくじを引く役目を経験しました。レフェリー3名が見守る中、両校のキャプテンが白い箱の中にある封筒に入ったくじを引きます。お互いに封筒を開けその中に「○」印がついている紙を引き当てた者が勝者になります。私の引いた封筒の中の紙には何も印が付いていませんでした。当然に相手方にその「○」印が付いていることは私しか分かりません。お互いの封筒の中身をレフェリー3名に確認してもらい、相手方の勝利が決まります。

そこで私と相手方のキャプテンは向き合い握手をします。その時、相手方のキャプテンから「お前たちの分まで全国で戦ってくる。決して今日の試合を無駄にはしない。」と声を掛けてもらい、私からは「頼んだぞ。」と一言だけしか声になりませんでした。

その後、グラウンドで抽選を見守る両チームとスタンドに向かって歩き出します。勝者はガッツポーズや当たりくじを引いた喜びを体全体で表現などしません。これは敗者の誇りを守る精神があるからです。しかし、顔付で分かるものです。私は仲間の待つもとへ戻り一言「すまん。」と頭を下げました。今まで苦しい練習を積み重ね、全国出場を目指していた仲間たちにキャプテンとして最後の最後に迷惑をかけたことに詫びるしかできませんでした。その時、仲間たちからは「ここまで一緒に頑張ってきたのは、お前のおかげだよ。ありがとうな!」と声を掛けられ私も仲間たちも大粒の涙を流しました。（次回へ続く・・・）

皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。 副校長 本田 敏行

